

# まちなみに残る風景

まちには歴史を感じる跡がたくさんあります。市内にある多くの遊歩道は水路を埋めたり蓋をしてつくられたもの。多くの水路がはり巡らされたむかしのまちを想像して歩いてみると面白い発見があるかも! 御領では、舟で水路を移動する体験ができますよ。



▲ 4月から9月の間は、乗船体験も実施されています。

## 水路が道、三枚板が大活躍 御領の水郷

MAP B-2

### 時代とともに変化…

河内平野は、縄文時代には生駒山の山裾まで海が広がっていました。その後時代とともに水が引いていき、弥生時代の終わりから古墳時代ぐらいに海と縁がきれてそれが河内湖となりました。平安時代になると湖は次第に縮小し「勿入淵なにいりそのぶち」と呼ばれる池となっていました。池が小さくなるにつれて周辺一帯は湿地帯となっていました。池の西側の御領では、鎌倉時代に集落ができ始めたことが発掘調査によりわかっています。これは池の周囲に堤防が築かれたことによって、池の範囲が確定し、周辺の湿地が人の生活できる環境となったからで、それが13世紀中ごろといわれています。この

池は江戸時代になると深野池と呼ばれるようになります。その後集落と農地が拡大するにつれて水路も数多く作られ、道路のような役割を担い始めました。水路は最近まで残っており、この地域特有の水郷の風景をみることができました。深野池の堤防には、現在府道八尾枚方線おかみがはしり、竈神社(道路標示では御領神社と表示されている)が祀られています。竈神社には、水を司る龍がいると伝えられ、水を鎮めるために堤防上に建てられたのではないかとわれています。

### 昔は水路が道の役割を果たし、三枚板が大活躍

御領地区では、昔水路は村の中を縦横に走り道路の役割を果たしていました。集落には菅原神社と竈神社という二つ

大阪府大東市御領1 (JR学研都市線「住道」駅から近鉄バス「御領東」 徒歩7分) 乗船体験 4月~9月の第1、第3日曜10:00~12:00 駐車場 なし  
問い合わせ先 御領せせらぎ水路保存会 ☎090-4903-2386 (保存会会長 頼尊(よりたか)さん)

むかしーのまちを  
想像してみよう!



の神社があります。菅原神社は地の神様で、霽神社は水を司る神様だといわれています。このことから御領地区は水(水路)との関わり合いが深かったことがうかがえます。昭和の時代までは、御領地区の民家の裏には必ず水路があってそこに船着き場があり、畑や田んぼの横まで船で行けました。船は「三枚板」といわれ、長さ約8.2m幅約1.1mで、人や物資、特に農産物を運んでいました。三枚板は、三枚の板を組み合わせて船を作っています。一枚目は船の横に、二枚目は反対側の横に、三枚目が底板です。

### 三枚板で道頓堀まで行ける水路の道がつながっていた

水路の水は寝屋川から注水していましたが、寝屋川の方が随分高く落差が大きい家の3階分くらい5m強あったようです。船で大阪市内まで行くときには、この落差を超えるための「水門」が二つあって、その中で水位を調節し水路から寝屋川へ、また寝屋川から水路へ三枚板を移動させていました。地元の人々はこの水門を「スエズ運河」と呼んでいたそうです。昔この辺に医者がいなかった時代には、病人を三枚板に乗せ心齋橋まで行ったこともあったそうです。船で道頓堀まで行ける水路の道が繋がっていました。交通手段の主役が車に移り、多くの水路は埋め立てられ道路に変わりましたが、いまでも昔の水路の一部が多少幅は狭くなっていますが残っています。

### 御領の水郷保存運動

水路では、きれいな水を保つために朝の9時から夜の9時まで人工的に水を流しています。この水は東大阪の浄水場からパイプで引っ張ってきています。水路が利用されなくなると、残った水路の水は流れず雨水が溜まるだけ。水はよどんで大変汚くなり、その結果、多くの水路が埋め立てられて道路に変わりました。でも埋めてしまったら二度と水路は再現できないと、御領地区では12年ほど前に「水路を保存する

か」、「道路にするか」で約1年もの間議論が続きました。大東市でも御領水路を残そうということで、国から補助金をもらって「綺麗な水路になるならいいだろう」と水路を残すことになりました。今では、綺麗になった水路をみて多くの人たちに喜んでいただいています。地元の有志約20名で「御領せせらぎ水路保存会」を組織し、年に二回洗浄機を使って水路の大掃除をし、睡蓮を植えたりもしています。水路には鯉、フナ、金魚、ザリガニ、亀、メダカ、などの生き物がおり、保存会で大切にしています。景観は水路だけでなく、自治会館は瓦屋根にして古い街並みにふさわしいようにし、地元の協力も得て周りの家も街並みに合うようにし、とても素敵な水郷の風景を楽しむことができます。

### 水郷で乗船体験

一般の人に水路体験をしてもらうために大東市が船を作り、「御領せせらぎ水路保存会」で管理しています。昔の三枚板は大きく重く、今の水路は昔より水深が浅いので人が乗ると船が動かない。そこで復元した船は三枚板の半分ほどの大きさにしています。乗船体験できる期間は4月～9月までの第1、第3の日曜日10時～12時まで。12時までに並べば乗船することができます。料金は保険料として100円です。船頭は保存会の方々で12名います。ほとんどの方が子どもの頃舟をこいだことがある方です。定員は大人5名、子どもなら7～8名乗ることができます。体験学習として氷野小学校は毎年定期的に参加しています。水路体験の大きな目的は、今とは違い昔は舟で移動していた時代があったことを実感して歴史の勉強をしてもらうことです。もっと多くの子ども達に来ていただきたいと保存会の皆さんは考えています。小学校の団体乗船を歓迎します。

最後になりましたが、御領せせらぎ水路保存会の橋本茂春さん、長時間にわたり貴重なお話をたくさん聞かせて頂きありがとうございました。(取材 松原 達也、橋井 耀平)